世界遺産登録は私たちの希望。平泉の理念を新しい岩手の道標に！

6月29日、パリのユネスコ本部で開催された第35回世界遺産委員会において、平泉の文化遺産が世界遺産に登録されました。達増知事は、世界に向けて感謝の気持ちと、復興に向かう決意を示した「東北復興平泉宣言」を発表しました。

東北復興平泉宣言

平泉の文化遺産が、ユネスコ世界遺産に登録されました。平泉町、岩手県、そして東北の私たちにとって、大きな喜びであり、誇りです。

東北は、3月11日の東日本大震災津波によりとても大きな被害を受けました。日本全国、そして世界中から多くのご支援をいただいたことに対し、心から感謝いたします。

11世紀、東北では激しい戦乱があり、多くの命が犠牲となりました。奥州藤原氏の初代清衡公は、荒廃した国土を復興し、戦乱の無い平和な理想郷を実現するために、この地にこの世の浄土を創ろうとしました。こうして、平泉の文化遺産が築かれていきました。

仏教の考え方に基づいて造られた平泉は、素晴らしい寺院や庭園を残すとともに、あらゆる生命を尊び共に生きるという理念を私たちに伝えています。

私たちは、平泉の理念を胸に、東北の災害からの復興に取り組みます。そして、平泉の文化遺産を、将来にわたって守り伝えていくことを誓います。

平成23年7月3日

岩手県民を代表して
岩手県知事　達増拓也

東北・北海道初の世界文化遺産に

2008年の「登録延期」から3年。推薦書を改定し再推薦を行い、平泉の文化遺産は「平泉―仏国土（浄土）を表す建築・庭園及び考古学的遺跡群」として、この度世界遺産に登録されました。

登録が認められたのは、奥州藤原氏4代の御遺体・首級（しゅきゅう）が眠る金色堂のある中尊寺、仏の世界を表したとされる浄土庭園のある毛越寺など、「浄土世界」を表した5資産。平泉の核である浄土思想に基づき、現世に仏国土（浄土）を創造した独特の事例であることが認められました。

震災によって大きな痛手を受けた岩手にとって、この世界遺産登録は大きな希望となるもの。県民の皆さんと力を合わせながら、「平泉の価値」を世界にアピールしていきます。

平泉が掲げた理念を、復興の道標に

11世紀の東北は、長い戦乱によって多くの命が失われ、国土は荒廃していたといいます。そこに新たな理想郷づくりの志に燃え、東北の中心に拠点を築いたのが奥州藤原氏・初代清衡でした。振り返ればそれは、震災から復興へと立ち上がる今の岩手の姿に重なります。

争いのない平和な地域をつくり、人と自然が共生できる理想郷をつくること。「平和」と「共生」を掲げた平泉の理念は、東北全体の復興の象徴であり、私たちが目指すべき新たな県づくりにつながっています。

人と人の絆を大切にし、互いに支え合い、共に生きる岩手へ。自然の力を生かし、美しい海と共生する岩手へ。平泉の理念を復興の道標として、新しい岩手を、一緒につくっていきましょう。

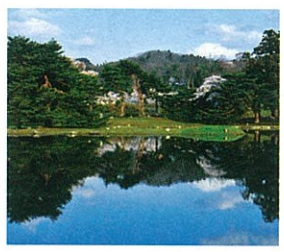
［世界遺産 平泉］

世界遺産に登録された5つの構成資産をご紹介します。

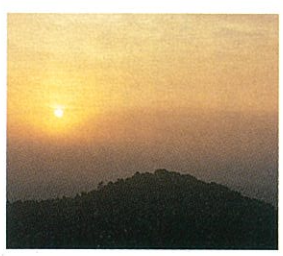
■中尊寺
奥州藤原氏の初代清衡が12世紀初めから四半世紀をかけて造営した寺院。境内には、金色堂、金色堂旧覆堂、経蔵等の国宝及び重要文化財がある。

■毛越寺
二代基衡が12世紀中頃に造営に着手、三代秀衡の時代に完成した寺院。日本有数の浄土庭園があり、特別史跡と特別名勝の二重指定を受けている。

■観自在王院跡
毛越寺の東に接する基衡の妻が建立したと伝えられる寺院の跡。阿弥陀如来の極楽浄土を表現した浄土庭園が造られていたと考えられている。



■無量光院跡
三代秀衡が12世紀後半に建立した寺院の跡。西方に金鶏山、園池に浮かぶ島に仏堂と拝所を設けた空間構成は、浄土庭園の発展した形態。



■金鶏山
浄土思想に基づいて、平泉の空間設計の基準ともなった信仰の山。中尊寺と毛越寺のほぼ中間に位置し山頂には経塚が設けられていた。